



滝川 雅之 先生

略歴

1988年 岡山大学歯学部卒業
1992年 岡山大学大学院歯学研究科修了
1992年 岡山大学歯学部附属病院第二保存科 助手
1994年 米国イーストマン・デンタルセンター歯周病学教室 客員研究員
1995年 米国ボストン大学歯学部口腔生化学教室 客員研究員
1996年 岡山大学歯学部歯科保存学第二講座 助手
1998年 医療法人緑風会ハロー歯科 院長 現在に至る

日本歯周病学会指導医 日本歯周病学会奨励賞（1996年）
岡山大学歯学部臨床講師 岡山大学歯学部同総会学術理事 岡山歯学会理事
日本禁煙科学会上級認定禁煙支援士 禁煙健康ネット岡山代表

妊婦に対する歯科診療のポイント

医療法人緑風会三宅ハロー歯科
滝川 雅之

かけがえのない生命を宿した妊婦は、我が子の誕生を待つ至福の喜びを感じる一方で、つわりなど身体の大きな変化に戸惑い、精神的にも不安定になりやすい心理状態にあります。また、歯科医師も妊婦歯科診療の経験が少ない場合には、妊婦患者にどのように対処すべきか悩み、X線撮影や局所麻酔、薬剤投与などによる胎児への悪影響を懸念するあまり、歯科診療を躊躇してしまうことが多いのが現状のようです。さて、歯科衛生士の皆さまは、不安を抱く妊婦患者に対し、笑顔で適切な対応を取り、自信を持って説明やアシストあるいは口腔衛生管理を行うことができているでしょうか？

妊娠期は亢進した女性ホルモンの影響に加え、つわりなどによる生活・食習慣の変化によって口腔衛生環境が悪化するため、歯周病や妊娠性エプーリス、う蝕、智歯周囲炎、口内炎など、様々な口腔疾患の発症リスクが非常に高まる時期といえます。さらに、妊婦の歯周病は、早産・低体重児出産、妊娠糖尿病ならびに妊娠高血圧症候群と関連することが報告されており、元気な赤ちゃんの出産をサポートするうえでも、妊婦に対する適切な歯周病治療の実践が不可欠です。一方、う蝕細菌は特に母親の唾液を介して子どもに伝播する（母子伝播）ことが多いため、生まれてくる子どものう蝕予防は、妊娠期の“マイナス1歳”からスタートすることが、最も理想的かつ効果的であるといえます。

妊婦に対し歯科診療を行う場合には、妊婦の身体的・精神的特徴を良く理解した上で、「母子の安全が第一に優先される」という大原則を守り、安心・安全な歯科診療を行わなければなりません。特に歯科診療に対する妊婦の不安を軽減し、早期に信頼関係を築くためには、同性としてのきめ細やかな配慮ができる歯科衛生士がまさに適任だと思います。

安心・安全かつ適切な歯科診療を行い、妊婦自身がセルフケアと予防の重要性を認識し、実践できるように導くことができれば、出産後も母と子さらに家族全員の定期健診へと繋がるのが期待できます。すなわち、妊婦の歯科診療は、未来を拓く理想的な健康支援のスタートとなり、生涯にわたり家族の口腔の健康と幸せづくりに貢献できるため、歯科衛生士がやりがいを持って取り組むことができる分野といえます。

今回の教育講演では、皆さまに自信を持って適切な妊婦歯科診療を実践していただくためのポイントについて、様々な症例を通して具体的に解説します。皆さまの明日からの臨床に役立てていただければ幸いです。